http://decfamily.p1.bindsite.jp/2013NEW/

We 25R

No.242　03/07/18

模試の復習

先日返却した模試の結果については、まだちゃんと詳しく見ていないのだが、目についたところだけ簡単に報告すると、いわゆる難関国立大学（東大・京大・一橋・東工大）を第一志望にして、その判定評価がＡだった人は18名いる。Ｂだった人は30名いる。ついでに、慶応医学部Ｂの人が１名。

25Rに限って言うと、前記Ａの人は２名（ともに文系）、Ｂの人が５名いて、まずまずの成績といえようか。

＊

…などと書くと、あまりイイ結果が得られなかった人はガッカリするかも知れない。しかし、そんなことは全くない。上記の諸君がイイ結果であったことは素直に喜ぶべきだし、引き続き努力を続けてほしいと思うが、悪い結果だった人ほどかえって「得」したのだということに気づいてほしい。

そもそも模試は（極論すれば）悪い点数を取るために受けるのである。イイ点数をとってしまったのでは、つまり、その模試に出題されている問題が出来てしまったのでは、自分の弱点がどこなのか、まったく分からなかったということになる。それでは、お金を払って何の成果も得られなかったということに等しいわけだ。悪い点をとったからこそ、自分の弱点、自分に欠けているところ、自分のおっちょこちょいな性格（笑）、その他が判明するのである。

だから、大切なことは「復習」することである。模試の問題はよく練られていて、うまい出題になっている。落とし穴もあるし、基本事項も含まれている。基本事項を組み合わせた応用のあるし、思考力・想像力を駆使しなければならない問題もある。だから、自分が間違えたところを確認し、なぜ間違えたのか、どこで間違えたのかを考えることがもっとも勉強になるのである。

繰り返すが、模試はイイ結果をとるために受けるものではなくて、自分の弱点を知るために受けるのだということをしっかり認識して、だからこそ、徹底的に復習してほしいと思う。予備校の中には、模試の問題と実際の問題が一致する「的中」を発表しているところもあるほどで、それだけ模試作りには工夫を凝らしているということだ。その良問を受けっぱなしにしておくのは勿体ない。同じタイプの問題が出たら、次は確実に得点できるといった自信が持てるようになるまで、とにかくきっちり理解して暗記しよう。

＊

夏休みには色々やりたいことがあると思うが、勉強に関してはあまりよくばらず、「どれか一つを徹底する」といったことでよいと思う。例えば、国数英の３教科の中で不得意な科目がある人は、その教科の１年生からの考査＋模試を全部解き直してみるというのもお勧めである。問題集や副教材の練習問題の解き直しでもいい。とにかく不得意を克服するコツは復習しかない。どうしようか？と手をこまねいている時間があったら、その手に鉛筆を握って問題を解くことである。